

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	カナカン株式会社新潟低温センター 新築工事 西区 亀貝字堤1438他 準工業地域、亀貝地区地区計画 事務所、工場、 2016年2月 予定 13,299.01 m ² 5,996.28 m ² 7,095.10 m ² 地上2F S造 実施設計段階評価 2015年11月27日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{45.6}{42.9} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目名	コード	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.0
			更新性	Q2.3.3	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.2		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.4
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.9		建物の熱負荷抑制	LR1.1	4.7
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。
自動水栓などに加えて、節水型便器などの省水型機器を用い、水資源を保護している。

CASBEE®新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カナカン株式会社新潟低温センター 新築工事	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市西区	構造	S造
用途地域	準工業地域、亀貝地区地区計画	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年2月 予定	評価の実施日	2015年11月27日
敷地面積	13,299 m ²	作成者	TO設計事務所
建築面積	5,996 m ²	確認日	2015年11月27日
延床面積	7,095 m ²	確認者	TO設計事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。	
その他		
Q1 室内環境	断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	自動水栓などに加えて、節水型便器などの省水型機器を用い、水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される